

—北陸地方整備局—

国道253号八箇峠道路の部分開通について

1. はじめに

国道253号八箇峠道路は、新潟県上越市から同県南魚沼市に至る延長約60kmの地域高規格道路「上越魚沼地域振興快速道路」の一部を構成する延長9.7kmの道路である。

当該区間の国道253号（八箇峠）の現道は、急峻な地形で線形不良箇所が多く、時間雨量40mm、連続雨量80mmで通行止めとなる異常時通行規制区間や急勾配（縦断勾配8%以上）区間が存在し、交通の難所となっている。また、日本有数の豪雪地帯でもあるため、降積雪による通行障害が発生することから、「八箇峠道路」の早期開通が求められていた。

平成29年11月25日に十日町市八箇ICから南魚沼市野田IC間延長6.6km間が部分開通したことにより、上記の課題が解消され、安全・安心な走行環境が確保された。



八箇峠道路

2. 工事概要

八箇峠道路は、平成12年度に直轄権限代行事業として事業化し、整備を進めているものである。

当該区間は自然環境が豊かな地域であり、稀少猛禽類やクロサンショウウオなどの稀少な動植物の生息が確認されていたことから、学識経験者等で構成する「八箇峠道路環境検討委員会」を設立し、委員会からの指導・助言に基づき、環境に配慮しながら慎重に工事を進める必要があった。



八箇IC から八箇峠トンネルを望む

また、積雪深が3m～4mにも達する日本有数の豪雪地帯に位置することから、一部の工事を除き毎年12月中旬から約5ヵ月間の休工を余儀なくされ、工事再開にあたっては、融雪による雪崩の危険を回避するため、ヘリコプター等による雪崩パトロールを実施し、工事再開時期の判断を慎重に行った。

事業区間には、延長2,840mの八箇峠トンネルがあり、事業推進には当該トンネルの早期完成が不可欠であった。このため、十日町市側と南魚沼市側の両側から掘削する計画としていたが、急峻な地形のため、南魚沼市側からの進入路確保に苦慮したが、最終的には河川管理者の協力を得て河川区域内に進入路を設置することで早期着手が可能となった。その他、微量の可燃性ガスの湧出の可能性がある地山であるため、トンネル内に検知器を設置する等、施工期間中の安全対策を講じた。

このように環境や気候、地形などの様々な制約があるなか、工程管理、施工の合理化・効率化に取り組み、今回の部分開通することができた。

3. おわりに

今後は、関越自動車道六日町IC及び国道17号とのアクセス強化を図るために、野田ICから余川IC（仮称）間を早期に開通させ、地域活性化、観光、救急救命活動の支援などに役立つ道路整備を目指し、着実に事業を進めていきたい。

（国土交通省 北陸地方整備局 長岡国道事務所 計画課 焼田 聡）